

英語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校

教諭 〇〇 〇〇

1 日時・学年・学級 平成30年11月〇日(〇) 3年〇組

2 単元名 ONE WORLD English Course 3 Lesson 5 Athletes and Languages

3 単元について

単元観

本単元では、世界で活躍する日本人アスリートの外国語習得について紹介している。

日本人アスリート達と外国語との関わりについての様々なエピソードに触れることを通して、言語のもつ力について考えたり、私たちがなぜ外国語を学ぶのかについて考えたりするきっかけとなる内容となっている。

また、本単元で紹介されている題材である、オリンピック、パラリンピック、また数々のアスリート達に対しては、生徒達が少なからず関心をもっていると考えられるため、それらに対して生徒自身の考えや気持ちを、理由とともに話すことに適している題材であると思われる。

さらに、この単元では自分の感想や考えとその理由を伝えるために有益な英語表現が扱われている。

このことから、本単元では、新学習指導要領の「話すこと〔発表〕」の領域別目標ウ「社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」につなげるよう、読んだことについて、その内容にかかる自分の考えや意見を理由とともに話すことができる力を養う。

また、評価の対象とはしないものの、今後につなげる活動として、読んだ内容をもとに自分の考えを理由とともに書く活動も行う。

4 単元の目標と評価規準（※能力に関する記述のみとしている）

〔目標〕 〇 読んだことについて、その内容にかかる自分の考えや意見を理由とともに話す。
→「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標との関連 話すこと〔発表〕①

〔評価規準〕 〇 読んだことについて、その内容にかかる自分の考えや意見を理由とともに話すことができる。

※ 本単元では、統合的な活動を位置付けるものの、評価は「話すこと〔発表〕」に焦点を当てて行う。

※「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標【3学年終了時】

外国語表現の能力		外国語理解の能力	
話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
① 聞いたり読んだりしたことについて、内容を確認し合うために問答したり、意見を伝え合ったりすることができる。 ② 身近な話題について、具体的に事実を伝えたり、自分の意見やその根拠を伝え合ったりすることができる。	① 読んだり聞いたりしたことについて、概要や要点をまとめたり、根拠を明確にしたりしながら意見や賛否を書くことができる。	① 物語や機内アナウンスなど、内容的にまとまりのある話を聞いて、その概要や要点などの必要な情報を聞き取ることができる。	① 物語や説明文など、話の内容や書き手の意見に対して、感想や賛否とその根拠を示せるよう(批判的に)読むことができる。
① 様々なテーマについて、その場で考えて、自分の考えや主張などを聞き手に分かりやすく筋道立てて話すことができる。	② 身近な出来事や体験したことについて、事実や自分の考え、主張などを、読み手に伝わりやすい構成で書くことができる。	② 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。	② 物語や説明文など、内容的にまとまりのある英文を読み、わからない語などがあっても、あらすじや要点などの概要をとらえることができる。

5 指導と評価の計画

時	ねらい	評価方法
1	○ 本単元で身につける技能や理解する内容を知る。 ○ 自分の考えや意見を理由とともに話すために役立つ既習表現を復習する。	
2	○ 自分の考えや意見を理由とともに話すために役立つ既習表現を復習する。 ○ あるスポーツ選手の経歴についてすでに知っていたことと初めて知ったことについて確認し、その人について思ったことや感じたことを、理由とともに話す。	
3	○ 教科書本文(Part.1)を読み、その内容にかかる自分の考えや意見を理由とともに話す。	
4	○ 教科書本文(Part.2)を読み、その内容にかかる自分の考えや意見を理由とともに話す。	
5 【本時】	○ 教科書本文(Part.2)の音読を通して、自分の考えや意見を話すことに有用な表現を身に付ける。 ○ 教科書本文(Part.2)を読み、その内容にかかる自分の考えや意見を理由とともに話す。	
6	○ 教科書本文(Part.3)を読み、その内容にかかる自分の考えや意見を理由とともに話す。	
7	○ 教科書本文(Part.3)の音読を通して、自分の考えや意見を話すことに有用な表現を身に付ける。 ○ 教科書本文(Part.3)を読み、その内容にかかる自分の考えや意見を理由とともに話す。	
8	○ 教科書本文(Part.4)を読み、その内容にかかる自分の考えや意見を理由とともに話す。	
9	○ 教科書本文(Part.4)の音読を通して、自分の考えや意見を話すことに有用な表現を身に付ける。 ○ 教科書本文(Part.4)を読み、その内容にかかる自分の考えや意見を理由とともに話す。	
10	○ 他の人物等について書かれた英文を読み、ペアでその内容にかかる自分の考えや意見を理由とともに話す練習をする。	
後日	〈モノローグテスト〉 ○ 他の人物等について書かれた英文を読み、個人が感じたことや考えたことを理由と共に教師に伝えるテストを行う。	モノローグテスト

※ 評価については、ここでは指導に生かすための評価（形成的評価）は示しておらず、外国語表現の能力の観点の評定につながる評価（総括的評価）に係るもののみを示している。

6 単元を通しての指導上の工夫点

- ① 毎時間の帯活動や週末に、ペアで生徒の日常的な話題について自分の考えや意見を理由とともに話す時間を確保する。
- ② 評価の対象とはしないものの、学習到達目標を意識して、本文の内容にかかる、自分の考えや意見を理由とともに書く活動も設定する。（二時間に一回程度）
- ③ 様々な方法で教科書本文の音読を行うことを通して、表現する力の向上につなげる。
- ④ 単元の目標を毎時間伝えることで、これからどんな力を付けようとしているのか、意識付けをするとともに、見通しをもって活動に取り組めるようにする。
- ⑤ 活動を設定する際に、自己関連性（Personalization）を意識する。
- ⑥ 真正の教材（Authentic Materials）を活用するよう意識する。

7 本時の指導過程と評価

(1) 本時のねらい

- 教科書本文 (Part. 2) の音読を通して、自分の意見や考えを話すことに有用な表現を身に付ける。
- 教科書本文 (Part. 2) を読み、その内容にかかる自分の考えや意見を理由とともに話す。

(2) 生徒達の「主体的・対話的で深い学び」につながる七つの視点

（※ 学習指導案7(3)に番号【①～⑦】で表示）

① コミュニケーションの目的・場面・状況の明確化	⑤ 豊富なインタラクション
② ペアやグループでの活動の重視	⑥ 自己関連性(Personalization)
③ 英文を読む目的の明確化	⑦ 真正の教材(Authentic Materials)
④ インフォメーションギャップ	

(3) 本時の指導過程と評価

	学習活動	○ 指導上の留意点・支援	評価規準 (評価方法)
導入	1 Greetings 2 Pair Talk (①・②・④・⑤・⑥) 佐藤真海選手について自由な考えを話す 3 Review 教科書に書かれていることや登場人物に関する生徒の思いや感想を口頭確認 (⑤・⑥) 4 本時のねらいの確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 佐藤真海選手に関することについて、自分の考えや思いを理由とともに話す。 </div>	○ すでに学習した、理由を示しながら自身の考えを話すための表現を意識するよう呼びかける。 ○ 練習量を増やすために複数回実施させる。 ○ 教師の問いに対する生徒の反応が思わしくない場合は、ペアで短時間で確認する時間を設ける。 ○ 同時に、単元目標も確認し、本時の活動が単元目標の達成に向けたものであることを意識付ける。	
展開	5 音読練習 (②・③) (1) 自分の考えや意見を話すことに有用な表現の確認 (2) Repeating (3) Read and Look Up (4) Buzz Reading (5) Sight Translation 1 ・ 一斉に行う (教師→生徒) (6) Sight Translation 2 ・ ペアで行う 6 スピーチ動画の視聴 (①・⑥・⑦) 「佐藤真海のスピーチのよさ・魅力」を英語でメモしながら見る。 7 Pair Talk ・ ペアで、メモを頼りにできるだけたくさん、自分が発見したよさ・魅力を理由とともに話す。(①・②・④・⑤・⑥・⑦) (メモを頼りにその場で話す活動) (1) ペア活動 1回目(1分×2) (2) 難しい表現を辞書で調べる (3) ペア活動 2回目1分×2)	○ 音読練習は自分の話す力の向上のために行うということ、丁寧な発音は自分の思いを相手により正しく理解してもらうために大切であること、目線を文字から離して読む・話すことは自信を持って自分の思いを相手に伝える基本条件であることを意識させて練習に取り組みさせる。 ○ 自分の考えや意見を話すことに有用な表現を探させ、それに重点を置いて練習する時間を確保する。 ○ スピーチ動画の視聴前に、視聴する目的を確認し、意識付けを行う。 ○ 内容の理解に固執せず、表情・声の調子・身振り・間の取り方などに着目させる。 ○ 自分の思いをうまく表現できない生徒は、有用表現をまとめたシートやフラッシュカードも活用するよう伝える。 ○ 練習量を増やすために、たてや斜めのペアも活用する。	
まとめ	8 本時の振り返り ・ 自分の考えや思いを理由とともに話すことができたかを振り返る。 ・ 自分が英語でどうしても伝えられなかった表現をワークシートに書く。		